



～小金井・小平の地域と会員をつなぐ会報誌～

発行人 一般社団法人相続後見シニアサポート多摩 理事長 久保晶子
発行所 〒184-0012 東京都小金井市中町4丁目14番17-606
TEL: 042-313-4600 FAX: 042-313-4700
編集人 一般社団法人相続後見シニアサポート多摩 広報渉外委員会

一般社団法人設立時社員総会開催のご報告

一般社団法人相続後見シニアサポート多摩 理事長 久保 晶子



平成30年12月12日(水)午後4時40分より、小金井市上之原会館集會室Bにおいて、一般社団法人相続後見シニアサポート多摩の設立時社員総会を開催いたしました。ご来賓として東京都行政書士会多摩中央支部・片岡慎二支部長、社会福祉法人小金井市社会福祉協議会権利擁護センター・室岡利明係長のご臨席のもと、原始定款の承認、設立時役員を選任、初年度の事業計画・予算の決定等の議案が議決されました。その後、公証人による定款認証を経て、平成31年2月1日(金)、法人設立登記を終え、一般

社団法人相続後見シニアサポート多摩が誕生いたしました。

当法人の母体は、平成24年12月、東京都行政書士会多摩中央支部会員有志が立ち上げた任意団体「相続後見シニアサポート多摩」(愛称・さぼたま)です。地域の皆様からご支援、ご協力をいただき、法人を設立するまで発展、成長することができました。これからも、成年後見制度の普及活動をはじめ、地域の皆様が安心して暮らせるまちづくりに貢献することのできるよう、メンバー一丸となって精進して参りたいと思いますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

市民公開講座 (報告 大塚素直)

平成30年11月23日(金・祝)午後2時より、東小金井駅開設記念会館「マロンホール」A・B会議室において、市民公開講座(主催:東京都行政書士会多摩中央支部、企画:相続後見シニアサポート多摩)「これってウソ?ホント?そこが知りたい!成年後見」を開催いたしました。初めに「これが基本だ!成年後見」と題し、成年後見に関する基本的な知識について当会の高柳昌樹会員がわかりやすく解説しました。

次に「そこが知りたい!成年後見」と題し、成年後見について世間的によく言われること、思われていることの真相について当会の久保晶子代表が詳しく解説しました。お客様からは、「成年後見について体系的に理解できた」「これまでモヤモヤしていたことも霧が晴れるようによくわかった」等のご好評をいただきました。

第9回勉強会 (報告 高柳昌樹)



2018年10月15日、第9回勉強会を実施しました。今回は「これが葬儀の最前線だ!葬儀のいろはから自然葬・墓じまいまで」というタイトルで、小金井祭典株式会社・代表取締役社長の是枝嗣人(これえだつぐと)様に葬儀・埋葬についてのご講義をいただき、13名の行政書士が参加しました。

講義では葬儀・埋葬の基本から最新の情報までの幅広い情報に加え、近年の変化にともなう新たな問題とその対応まで、盛りだくさんの内容をレクチャーしていただきました。我々行政書士にとって、業務の一環としてお客様にお伝えすべき内容や、お客様の気持ちを思いやる考え方などを事細かに学ぶことができ、大変充実した時間となりました。

今後も業務に関する勉強会を開き、お客様に寄り添った支援・業務を行えるよう研鑽を続けていきますので、よろしくお願いいたします。



当法人では、活動趣旨に賛同し、ご支援いただける方を随時募集しております。

皆様からの温かいご協力をお願い申し上げます。

賛助会員 年会費 1口 2,000円(1口以上)

会員になられた方には、広報誌とセミナー等のご案内を発送させていただきます。

入会をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。(担当:霜鳥 042-316-4426)

また、ご寄付(金額指定なし)も別途受け付けております。

【受任実績】(平成31年1月31日現在)※			
成年後見人・保佐人・補助人就職	25件	財産管理等委任契約締結	3件
日常生活見守り等委任契約締結	6件	任意後見契約締結	4件
日常的金銭管理委任契約締結	3件	死後事務の委任契約締結	16件
		遺言執行者への指定	18件

※当法人の紹介を通じて、当法人会員(または会員の所属する法人)が受託した受任実績

<見守りの事例> 小野寺孝成

今、率直に考えているのは、施設に入居している利用者（Aさん）の家庭裁判所への成年後見申立て（市長申立て）をどうするかです。

Aさんに初めてお会いしたのは、死後事務についてのご相談を承ったときでした。見るからに高年齢にしては、お元気そうに見えました。Aさんはかかりつけ医の訪問を受け、食事は宅配弁当という生活でした。不動産と預貯金について、遺言書に書き記したいということでしたが、お話しするうち、見守りについても必要と考えられ、提案したところ承諾していただき、契約を結びました。

Aさんは、以前外出先で倒れ、救急車で運ばれ入院したという経験があります。とある土曜日のこと。事務所に電話があり、「自宅で倒れてしまい、お医者者に電話したら、主治医がおらずかけつけられないと言われた」とのことでした。急いで訪問したところ、Aさんの様子から、これは救急車が必要と判断し、私も同乗し、病院を手配して、Aさんは入院することになりました。軽い脳梗塞でした。

約1か月後退院して、しばらくは落ち着いていたのですが、今度は宅配の弁当が飽きて食べられないというので、デパートの有名店の弁当を買って行きました。最初はおいしいと言って召し上がっていましたが、急に、箸をおいたのでした。かかりつけ医に相談したところ、再入院ということになりました。その後、病院から退院許可が出たものの、独居は無理ということで介護老人保健施設に入居しました。

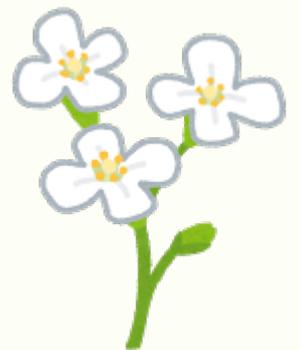
現在は、Aさんは病気とか大きな転倒事故もなく過ごしております。が、施設の主治医には後見相当との回答をいただきました。Aさんは肝心なことは忘れ、また同じことの繰り返しを続けるので、市と社会福祉協議会に相談し、市長申立ての準備を始めました。Aさんの「家に帰りたい」という言葉が頭から離れず、私は、日々、悩みながら見守りを行っています。

<後見業務の事例> 大木雄一

私が担当した女性（70代）は、精神疾患（統合失調症）のため長期の入院を余儀なくされてきました。病状は徐々に進行をしており、認知症のような症状も現れ始めていました。唯一、女性を支えていたご親族が亡くなってしまったため、紹介を受け、後見人として就任の運びとなりました。

就任当初は、病状も安定をしないため、担当者が面会に伺ってもあまり元気のない様子が続きました。そのような状況でしたが、月に一度の訪問をかかさず、病院の職員（医師、看護師、ソーシャルワーカー）と連携をして、ご本人を支えていきました。

そうした中、服用しているお薬を見直したところ、病状に改善が見られ、面会の際には笑顔もたくさん見られるようになりました。体調の良いときはお寿司などの差入れも召し上がり、「おいしかったです、ありがとう」という言葉もいただきました。月に一度の私の訪問も楽しみにしてくださるようになり、いつも笑顔で対応をしてくださいました。後見人として必要とされている、という使命を感じることができた事例です。



【平成 30 年度活動報告】

➤ 勉強会

平成 30 年 10 月 15 日（月） 第 9 回勉強会「これが最前線だ！ 葬儀のいろはから自然葬・墓じまいまで
～業歴 19 年の若手社長が語る葬儀納骨最新情報～」

➤ 市民公開講座・相談会

平成 30 年 11 月 23 日（金） 市民公開講座「これってウソ？ ホント？ そこが知りたい！ 成年後見」及び
個別相談会

➤ 講師派遣・相談員派遣

平成 30 年 6 月 12 日（火） 社会福祉法人三鷹市社会福祉協議会及び社会福祉法人小金井市社会福祉協議会共
催の平成 30 年度第 1 回親族後見人のつどい「成年後見における死後事務」

平成 30 年 9 月 27 日（木） 小金井市市民部経済課主催の平成 30 年度消費者講座（高齢者見守り協力者養成
講座）「老後の財産管理～遺言だけじゃない！ ご存知ですか！ 任意後見制度
の活用方法～」

平成 31 年 2 月 28 日（木） 社会福祉法人小金井市社会福祉協議会権利擁護センター主催の平成 30 年度第 2
回成年後見制度等市民啓発講演会「老後の準備のために～後見制度と遺言・死後
の事務整理～」

平成 31 年 3 月 4 日（月） 社会福祉法人小金井市社会福祉協議会権利擁護センター主催の「平成 30 年度相
続・遺言・成年後見制度相談会」

➤ 渉外活動

平成 30 年 10 月 28 日（日） NPO フェスタ in 元気村 2018 へ出展

相続後見シニアサポート多摩にお気軽にご相談ください

● 法定後見 ●

成年後見人等候補者のご紹介
— 家庭裁判所の審判による後見 —

● 任意後見 ●

財産管理等委任契約
— 足腰が不自由な場合などの財産管理等 —
任意後見契約
— 将来に備えた契約に基づく後見 —

● 見守り事務 ●

日常生活見守り等委任契約
— 日常生活の困りごとのご相談・見守り —
日常的金銭管理委任契約
— 通帳のお預かり・費用のお支払い —

● 死後の整理事務 ●

死後事務の委任契約
— ご葬儀・身辺の整理事務 —
遺言
— 遺言作成・相続に関するお手続き —

<編集後記>

昨年、私も相続後見シニアサポート多摩が会報誌を作成してから、あっという間に 1 年が経過しました。

その間、当会は、法人化することで組織の基盤を強固なものとし、同時に、多くの新しい仲間にも恵まれました。これで、ますます、地域の方々のお役に立つ体制が整ったと思います。

本会報誌では、当法人が、これまでと変わらず、また、これまで以上に活動を継続・発展させている様子を、定期にお伝えしていこうと考えています。地域の皆様方、各関係機関の皆様、どうぞ、宜しく願っています。

（霜鳥文美恵）